第89回　横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日　　時	令和４年５月18日（水）14時00分～15時30分
開催場所	横浜市立大学　金沢八景キャンパス　YCUスクエア４階Y401
出席委員	工藤委員長、有賀委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	今市委員
法　人	小山内理事長、相原学長、中條副学長、遠藤副学長　ほか
事務局	高倉大学担当理事、澤田大学調整課長、中村大学調整課担当係長　ほか
開催形態	公開（傍聴者　なし）
議　　題	１　第88回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について ２　横浜市公立大学法人評価委員会　評価の考え方・進め方について ３　第３期大学機関別認証評価結果について ４　公立大学法人横浜市立大学　令和４年度　年度計画概要について ５　第４期中期目標・第４期中期計画について ６　その他
決定事項	

議　　事	主要な発言は、以下のとおり。 （○：委員発言、△：法人・事務局発言） **※議題１について＜資料１＞** 特に意見なし **※議題２について＜資料２＞** （事務局より資料２の説明） 特に意見なし **※議題３について＜資料３＞** （法人より資料３の説明） ○認証調査機関を変えたのは、何か都合や理由があるのか。 △認証評価機関にどこを選定するかコストとベネフィットを勘案して検討した。これまでの受審料がかなり高額で、一方それに見合う改善事項や助言があったのかということも併せて考え、もう少しコスト的にも抑えられるとよいという話もあった。 今回受審した大学教育質保証・評価センターは、公立大学協会が 2019 年８月に文部科学大臣の認証を得て設置されたところで、公立大学の事情に配慮した評価をしてもらえることが期待された。その一例として、このような外部評価委員会や市会との対応等、国立大学等には無い公立大学特有の事情を考慮してもらえるのではないかということから、今回認証評価機関の変更をしたという経緯がある。 ○どのくらいコストを抑えられたのか。 △だいぶ抑えられ、前回約 16,600 千円だったものが約 7,900 千円と２分の１くらいになった。基本的な費用だけでも 2,000 千円くらい違い、加えて選択項目ではさらに費用がかかるということで、相当な額の差が出るというのが実情であった。 ○２つの機関以外にもいくつかの候補、選択肢はあるのか。 △前回受審した独立行政法人大学改革支援・学位授与機構や大学基準協会などがある。 ○「改善を要する点」の２点目の、学長と教授会の役割、権限について指摘を受けているが、

教授会の役割の見直しをしたのは７年前か。前回受審の時に指摘されて、また今一度指摘されたというのはどういう経緯があったのか。

△かねてから本学では、法人化した時に既に教授会の役割をカリキュラムの編成と、学生の身分異動に関することということで整理し、学長のリーダーシップの下で運営していくという体制を作っていたが、規程にそこまで書き込まれていなかったため、それを明記すべきではないかと指導を受けた。今回対応を既に済ませており、実態に合わせて規程の方を改正した。

○「改善を要する点」、「今後の進展が望まれる点」とあるが、わかりやすく言うと、「改善を要する点」というのは、評価する側と大学とでそもそもベクトルが違う、ここは改めた方が良いといったようなもの、「今後の進展が望まれる点」というのは、ベクトルは合っているけどもう少し進めたら、あるいは深掘りしたら、ということで、改善するということとは違う位置づけの見方で良いのか。それとも全体的に表現が改善、改善と書いてあるので、指摘されたことが２点も４点も、レベルの違いこそあれ良くなかったことなのか、それとも全く違うことなのか、表現が分かりにくい。

△ご指摘の通りであると思う。「改善を要する点」というのは、制度上または規定上問題があるのでしっかり対応しなさいということであると思うし、「今後の進展が望まれる点」というのは、今の取組の質的改善や深掘りをしていくということだと思っている。

○もう一点、冒頭の趣旨の所の下の※のところに、今回受けた評価、地方独立行政法人法に基づき、各期、中期目標の期間における実績評価にあたっては、これについて評価を踏まえることとなっているが、先ほど説明があった年度ごとの評価、考え方、具体的には触れていないが、大学側が自己評価をする際にはこれを踏まえているという前提で良いということか。

△法人評価委員が、認証評価結果を踏まえ、評価するということと理解している。

○当然受審した大学側がわかっているわけだから、そこについてこれからの実績自己評価の中には大学側から何か出てくるのか。

△こちらの認証評価結果は、第三者からの評価を踏まえて、委員が法人を評価する際に専門的な観点からの評価を参照してほしいということだと思う。

○わかった。

※議題４について＜資料４＞
（法人より資料４の説明）
特に意見なし

※議題５について＜資料５＞＜資料６＞
（事務局より資料５の説明、その後、法人より資料６の説明）

○最後の資料６に、あちらこちらにグローバル化という言葉が出てくる。グローバリゼーションというのはいったい何なのかについてここでぎりぎり議論しても仕方ないが、例えば資料６の２ページ目の中期計画の「Ⅰ　教育」というところの、(1)の４の①の「＜医学部＞時代の変化に対応した医療人材育成」というのがあって、そこにグローバル化というキーワードで、「①グローバルな視野を持った医療人材の育成」とある。先ほどから出てくる「少子化、高齢化」が横浜市におけるこれからの大きな問題となるであろうことを考えた時に、そのこととこのこととは、どういうところでシンクロするのか説明してほしい。横浜市の状況について国際的な横浜市という位置づけは確かに間違っていないと思うが、住んでいる人そのものは、これからどんどん高齢化していく。人口もそこそこの状況で減っていく。医療では地域包括ケアのようなことは多分必要になってくる。そういう観点での

見方と、【グローバル化】の視野を持った医療人材とについて、これはどのようなことなのか教えてほしい。

△横浜市に対して貢献していきたいというのが、医学部の第一義であるが、そうすると、横浜市の地域医療だけに注力するようなイメージがどうしても出てしまう。横浜市は素晴らしい都市であり、一生懸命横浜市のため、もしくは地域の問題解決のために注力することで、世界に向けてこういう解決方法があるということを提示できるのではないかとの考えで、グローバルな視点を持った医学教育と入れさせてもらった。具体的には、今医学部の30%位の学生は卒業までに何らかの形で留学をさせるようにしている。本当に神奈川・横浜の地域医療だけだったら留学は必要ないが、常に外向きの若い力を育成したいという思いでやっている。

○今言った高齢化という話から見ても、我が国は今や世界のトップランナーである。その中でいずれ横浜市でも展開しなければいけない、地域包括ケアシステムの方法論そのものが、恐らく台湾であれ、中国であれ、東南アジアのどこであれ、模範になる可能性は高い。そういう観点でのグローバル化というのなら確かにそうだと思う。そのことだけ考えれば、横浜から外に出なくても良いのではないかという話は多分ないと思うのでよくわかった。

△補足で、市内には、外国籍の居住者が、かなりの割合で占める地域があるということで、多様な言語、価値観を持った人たちに対しての医療を果たしていくということも、横浜市の課題になっており、そういった観点からのグローバル化も含まれているのではないか。現在、この件で外部資金の申請も考えている。

○おそらく今の話は、医学で使われる言葉を、どうやってその国の優しい言葉にしていくか。その国の中に日本語も入っている。私たちが普段使う医学用語を患者さんに話すと、基本的にはほとんど理解されないので、どうやって優しい日本語にするのか、そういった医学における研究分野も出始めているので、今先生が言ったことは、ベーシックには共通しているのではないかという印象を持つ。
ちなみに、総合診療について、救急医学を勉強した人は、開業すると総合診療と親和性が高いことがよく分かるのだが、これから医学部を卒業して10年後、15年後に活躍することを考えると、総合診療のセンスは必要である。そのあたりは、もうやっているのか。

△総合診療に関しては、教授はいるが、講座化はできていない。糖尿病や高血圧等のそれぞれの専門診療科の講座主任とどのように棲み分けをしていくのか、まさに議論の最中ではある。

○学生にとってみれば恐らく卒業した後に医療が益々進化していく。しかし、今議論している人たちはしばらくすると定年で現役を退く。なので、これから卒業していく人たちこそが、今から分野と分野の棲み分けにしろ、それらの重複にしろ、何にしろ、どういう風に総合診療を実践していくかという話の中心にいることになるのではないか。これから卒業する人たちを議論に巻き込む必要があるのではないかと思う。

△仰る通り、総合診療は市大の遅れている点である。早くキャッチアップして追いつきたいと考えている。

○私も少し気になっている所が、グローバルというところである。骨子案の中にも随所にグローバルという言葉が使われている。グローバルリーダーだったり、グローバル教育だったり、最後の大きな５番に「Ｖ　グローバル化」とあるが、教育だ、医療だ、研究だと読んでいく中で、グローバルという言葉は、あまり違和感は無かったが、骨子なので、そんなに気にすることはないかもしれないが、グローバル化の「化」が違和感がある。
その下に「＜グローバル化の柱＞」と書いてあって、グローバル戦略、要するに市大がやっていくさまざまな医療研究、教育、地域貢献、いろいろなことをやっていく中で、グローバルというキーワードを意識しつつ、様々なテーマに取り組んでいくということはよくわかるが、グローバル戦略だったり、グローバル化だったり、いったい何がその言い方に

違いがあるのか。最近ナントカ化というのがあまり好きではなくて、この表現はどうなのだろう。単純にグローバル戦略という方が分かりやすい。

○私が気になったのは、グローバリゼーションというのは、資本や労働力が国境を自由に越えて行き来するということがそもそものグローバリゼーションで、日本の国が世界の陣営としては自由主義陣営に属していて、例えば関税を引き下げながら資本と労働力が行き来することができるようにしてきた。このようなことがグローバリゼーションで、調整型の市場経済から自由主義的な市場経済になっていって、人々の生活も終身的雇用制ではなくて、労働の流動化がおこり、女性もそのような労働環境、資本の動きの中で社会進出を果たして来た。社会としては脱ジェンダー化が起こってくる。離婚率も増えてくるし、皆婚主義も衰退してきた。そうして社会が変わっていくという話をグローバリゼーションということで作文の中に多岐に渡って書き込んでしまって、何が何だかわからないということが起こってしまっているのではないか。そのようなことを、私は心の中で、この多岐に渡った使用法はいったいどうなってしまうのだろうかという印象があって、最初にグローバル化について触れた。ですので、今言われたようにグローバリゼーションとなってしまうと、大変なことになってしまうのではないか。国際化とか日本語だったらまだ良いとは思うのだが。

○今話があった通り、「Ⅴ　グローバル化」という大きな骨子のすぐ下の所に下線が引いてあり、その一番下の所を見ると、グローバル化について、「ポストコロナ・ニューノーマルという視点を十分に踏まえ、オンラインをはじめとした新たな国際交流の形を検討し」、というのはそうではあるが、それに「グローバル化については」と頭につけてしまうと、とても大げさな感じがして、そんなにグローバル化という言葉に拘る必要があるのかという感じがする。それこそ市民から見てわかりやすいだろうか。

△個人的な考えだが、「グローバル化」はあまりにも便利な言葉であるため、ついつい使ってしまう。日本人は言霊に支配されやすく、グローバル化と書いておけば通じるのではないかということがある。例えば、教員の20%を外国籍の方にするとか、学生の30%は卒業までに海外を経験するとか、もう少し各論的に記載した方が良いのかと、意見を聞いて思った。

○グローバル化と言われてしまうと、立場によって捉え方が全然違ってくるので、それよりはもう少しシンプルでわかりやすい言葉を使う、グローバル化という言葉を使わなくていいと言っているわけではないが、グローバル教育といったら、教育がついているだけにイメージがはっきりわかる。なので、そういった使い方をするのなら違和感は全くないのだが、グローバル化と言ったとたんに、その後何を書くかによって拡大解釈もあれば、逆に言えば狭隘化される。そこの表現の所だけである。

○資料４に「Ⅲ　国際化」というところがある。今話があったグローバル化といった話と同じようなことで、確かに○○化とすると○○していないから○○をやりましょうねということなのだろうが、グローバル化というのはどうも国際港湾都市横浜でグローバルではなかったのか、市大としてやることはやってきたのだろうが、広げていこうということなら、グローバル化という言葉だけでは、誤解を招く局面もあるかもしれない。資料４の「Ⅲ　国際化」と資料６のグローバル化と整合性を図りながら。いずれにしても年度計画も中期目標、中期計画も当委員会が作るものではなくて、市と大学側で作るのを見せてもらい意見を言ったというもので、私どもの意見を押し付けるものでもなくて、あくまでもこういう意見もあるということを感じながらやってほしいと思う。

○違った質問をさせてもらうが、ＤＸの推進について。中期計画の修正点の所で、「Ⅰ　教育」の(3)の１に「ＤＸ（ＬＭＳ）、多様な授業形態の活用」とあるが、その下の４項目の中にハイブリットを多用したそのあたりが具体的に記載されていなくて、ハイブリット授業とか、中期計画がある以上、コロナが終わったら全部こういうのは忘れて良いということではなくて、コロナの時に培ったオンライン授業やハイブリッド授業をこれからも生かしていくべきということだと思うが、そのあたりが教育面でのＤＸに具体的記載があれば良い

	のではないかと思った。資料４の下の方に、「働き方改革及びＤＸ推進」とあり、テレワーク対応という話があったが、中期計画の後半のＤＸ推進を支えるＩＣＴ、インフラ整備とかなり記載があるが、ＤＸの推進は、教職員の働き方の問題だけではなく、学生生活、活動のサポートに活用してほしいので、そのあたりが見えてくれるとありがたいと思った。ハイブリッド授業、オンラインで受講することも選択できれば非常にありがたいと思い、お子さんのメンタルや体調のサポートも兼ねて、授業のＤＸ、教育活動のＤＸは、もちろんこの中に含まれているのはわかっているが、ぜひ力を入れてほしいと考えている。 △ご指摘の点は、我々も考えており、授業形態についてもコロナが収束したらすべて対面ということは考えていないので、オンラインが有効な授業についてはオンラインを使っていく。今年度から導入したＬＭＳによって個々の学生と教員が対面でなくてもよりタイムリーにやり取りできるような体制も作っていこうと思っている。こういうことがわかるように記載する。 ○もちろん含まれていると思うが、引き続きよろしくお願いしたい。 ○今言われていたことは、骨子の中のどこに表れているかというと、「Ⅶ　法人経営」の最後の所に出ていると思うのだけれど、やはり 100 周年を 2028 年に迎えるという中期計画の年度でもあるので、もちろん法人経営という切り口で始めるのだが、コロナを経験し、これは教職員が中心になりがちだが、ここは学生も含めて三位一体で、生き生きと働ける職場プラスキャンパスみたいなところを、もう少し法人経営の中で取り込んで、それで 100 周年。学生も卒業生も。学生が抜けている。教職員、学生、卒業生、これらを一体となって織り込んで、ここで具体的ないろいろな施策を展開していくという方が良いのではないかと思う。法人経営というと、どうしても教職員になりがちだが、この中期計画期間中に様々なことが、アフターコロナを踏まえ、100 周年を迎えようということなので、良い機会だから学生も織り込んで、共同で出来るようなことも当然あるわけなので、そういう文言も骨子の中に生かして織り込んでも良いのではないかと思う。 △同じページの(2)の２の②の「基金の拡充」というところで、学生とＯＢと学生の保護者をしっかり把握して、協力を仰ぐというところは基盤として大事だと常々実感している。ぜひここのところをもう少し詳しく記載して、学生・ＯＢ・保護者等と協力しながら、という形にしたいと思う。 △今朝の神奈川新聞で、大変大きく市大の学生がＳＤＧｓで社会貢献しいていることを取り上げていただいたことからも、学生のこうした活躍が法人の経営や運営にいかに力になっているかを実感できた。学生、保護者、ＯＢが連携をすることによって、法人の力が蓄積され、今後さらに発揮していく機会を得られると思うので、そういった視点でも記載できるよう工夫をしていきたい。 **※議題６について＜資料７＞** （事務局より資料７の説明） 特に意見なし △議事の３つめで、大学機関別認証評価についてのやり取りにあった、認証評価の活用、法人評価に対する影響の関係性を、改めて確認をさせてほしい。資料３の 1 ページ目の趣旨の中で、「※大学機関別認証評価とは：」とあり、以下に地方独法の 79 条の記載がある。ここでは、主語が評価委員会で、こういったみなし評価とか年度評価をする際には、認証評価を踏まえるものとするという記載があるので、そういった形で委員に評価に活用してもらいたいということで説明を追加する。

資　　料 ・ 特記事項	〔配付資料〕 資料１　第 88 回　横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案） 資料２　横浜市公立大学法人評価委員会　評価の考え方・進め方について 資料３　第３期大学機関別認証評価結果について 資料４　公立大学法人横浜市立大学　令和４年度　年度計画概要図 資料５　第４期中期目標の策定について 資料６　第４期中期計画策定　進捗状況について 資料７　令和４年度　横浜市公立大学法人評価委員会開催予定 〔参考〕 公立大学法人横浜市立大学関係資料